

令和元年6月27日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02699

研究課題名(和文) 『スペイン語学習のめやす』に基づく教授法・教室活動に関わる研究

研究課題名(英文) Classroom-based Activities for Developing Guidelines in Spanish Language Learning

研究代表者

大森 洋子 (OMORI, Hiroko)

明治学院大学・教養教育センター・教授

研究者番号：60233277

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、従来の文法シラバスから脱却し、社会文化項目、語用論的側面を重視した教室活動が出来ないかを模索した。普段の教室での外国語学習の問題点を指摘し、文法に特化した教室活動で果たして外国語(スペイン語)の運用能力を高めることができるのか、社会文化項目として何をどのように教える必要があるのか、それをどのように活動として提示することが可能なかを模索し、いろいろな議論を重ねることで、教室でのアクティビティの大切さ、文法重視から、コミュニケーション重視の必要性、社会文化項目への関心を高めることが必要であることを確認し、到達目標を社会文化項目と関連づけることを念頭においてアクティビティを策定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

科研課題番号24520659における研究では、スペイン語教育の新しい視点導入のための方法を模索し、その成果としてUn modelo de contenidos para un modelo de actuacionを上梓した。そこでは、学習者中心の教育方法、さらに言語の構造的な知識だけでなく、その背景となる文化、語用論的な知識を重視する教授法を模索した。その基盤には、これから生きていく学習者の人格形成にもつながる言語教育の方法がないかを考え、自国、自分とは異なる文化に体する理解を深め、それを受容できる力の養成をどのようにしたらよいかなど、新しい言語教育観の推進に大いに寄与している。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we have gotten away from the traditional grammar based syllabus of teaching Spanish to explore whether classroom activities can be made with emphasis on sociocultural items and pragmatic aspects. We have pointed out the problems of foreign language learning in the everyday classroom to find the better methods of teaching sociocultural items in foreign language teaching in Japan. In order to improve communicative skills of Spanish, twelve classroom activities focused on sociocultural aspects are proposed according to the twelve themes of communication. We have addressed Spanish variation, for example, differences between Spain and different countries of the Americas in addition to the relation with grammatical contents and vocabulary. We also have attended to the different conditions of the classroom.

研究分野：スペイン語教育

キーワード：スペイン語教育 教室活動 異文化理解

1. 研究開始当初の背景

科研課題番号 24520659 における研究では、スペイン語教育の新しい視点導入のための方法を模索し、その成果として Un modelo de contenidos para un modelo de actuación (以下 Modelo) を上梓した。その中では、まず、スペイン初学者に到達してほしいレベルを能力記述文で明示し、読む、聞くという理解の領域と書く、話す能力に分け、さらに話す能力については、やり取りの場合、発表の場合を想定して、それぞれの記述を行なった。さらに、学習者中心の教育方法、さらに言語の構造的な知識だけでなく、その背景となる文化、語用論的な知識を重視する教授法を模索した。その基盤には、これから生きていく学習者の人格形成にもつながる言語教育の方法がないかを考え、自国、自分とは異なる文化に体する理解を深め、それを受容できる力の養成をどのようにしたらよいかという、新しい言語教育観の推進に大いに寄与していると考えられる。

こうした背景はいろいろなところで論じられることは多かったが、一方で、文法中心のシラバスに基づいた教科書、教材が多い状況が続いていることは否めない。単にコミュニケーション能力の充実を目指す教育理念を掲げても、その教育方法を例示しない限りは実践が行なわれないことを認識していた。教室で行なわれるさまざまな活動を行ないながらも、それが実際の習得に結びついているのかと言う点の検証も行なわれていない。また、学生のこうしたコミュニケーションの活動を評価をどうするかと言う課題が残されていた。実際の授業で活用できる活動例を示すことが大きな課題として残っている状況であった。

2. 研究の目的

前述の学習のめやすで示された指針について、具体的な授業での活動例を示すことで、初級レベルでもより文化的、語用論的な側面を導入した活動を提示することができる考えた。スペイン語授業に新しい活動を導入することで新しい教育実践の提唱、さらには教室活動からの実践を研究することで、新しい外国語教育観、方法論の構築を目指すことである。

これらの到達目標を設定して活動案を提案することは、評価の指標を考案することともつながり、評価の方法について具体的な案を模索する第一歩にもなると考えた。

3. 研究の方法

研究は、スペイン語教育研究会の活動の一貫としてすすめられた。一方では、関係する論文に関しての研究、具体的なワークショップへの参加などで、スペイン語教育についての具体的な提案について研究した。例えば、教室における使用言語、母語、また目標言語の使用等について、学習者の学習スタイルの問題などについて専門家を交えたワークショップなどを行っている。それと並行して、具体的に提示した 12 のテーマについて、テーマごとにネイティブ教員と日本人教員がチームを結成し、それぞれ Modelo に記載された学習項目、到達目標に合致するような活動案を考案して発表、質疑応答、コメントの交換ののち、それらを踏まえて、再度次の会で修正案を提案、それらを 1、2 度繰り返し、最後は、Modelo で主張した、社会文化項目、語用論項目を重視した活動になっているか、文化的項目がスペインに偏りすぎていないかなどを検討した。その上で、活動の内容を考慮しながら評価基準についても言及している。活動に使用するパワーポイントについても実際の授業を想定しながら検討を加え、最後に冊子としてまとめた。具体的な教材は GIDE のホームページからダウンロードできるようにしている。

#### 4. 研究成果

成果は Un modelo de actuación. Aplicación prácticas para la clase de español という題で冊子としてまとめられ、スペイン語教育に携わっている教員（大学、高校など）に配布するとともに、GIDE のホームページに掲載し、活用できるようにしている。さらに、今後は、他のスペイン語教育関係者との交流、さらには、他言語の言語教育関係にも大きな影響をおよぼしている。前者の例を挙げると、関西スペイン語教育研究会 (TADESKA) との合同ワークショップの開催を行ない、活動例の共有やどのようにパフォーマンスの評価を行なうかなどの意見交換が行なわれた。そのなかでは、大学のカリキュラムにどのように組み込んでいくか、また文法を基盤とする教育のなかでは、文法項目との対照表などが必要ではないだろうか、などの意見が寄せられ、今後の課題が見えてきたとも言える。

さらに、他言語で言えば、例えばフランス語では、「フランス語の学習の指針」が刊行され、そのなかでは多くの活動例が、ルーブリック評価表、授業活動の例として提示されており、フランス語研究グループ、さらには他の言語の活動交流を通すことで、さらに多言語教育のための基盤ができてくるのではないだろうかと思われる。

#### 5. 主な発表論文等

##### 1. [学会発表] (計 1 件)

西村 君代、中島さやか、山浦アンヘラ Un modelo de actuación. Aplicación prácticas para la clase de español CANELA ポスター発表 2019年5月18日

##### [図書] (計 2 件)

1. 大森 洋子 「スペイン語学習のめやす：スペイン語教育改善にむけて」『他者をつながる外国語教育をめざして 「外国語学習のめやす」の導入と活用』 田原憲和 編 2019年

2. 落合佐枝 「日本における第二外国語としてのスペイン語授業のための「めやす」作り」『ことばを教える・ことばを学ぶ・複言語・複文化・ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) と言語教育』 泉水 浩隆編 行路社 2017年

##### [その他]

ホームページ等

<http://gide.curhost.com/publicacionesJP.html> (Página web de la asociación GIDE)

#### 6. 研究組織

GIDE (スペイン語教育研究会) のメンバーを中心に、定例会に出席するメンバーがメインで研究を進めた。

##### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：西村君代

ローマ字氏名： NISHIMURA, Kimiyo

所属研究機関名： 上智大学

部局名： 外国語学部

職名： 教授

研究者番号 (8桁): 10365679

研究分担者氏名： 落合佐枝  
ローマ字氏名： OCHIAI, Sae  
所属研究機関名： 獨協大学  
部局名： 国際教養学部  
職名： 非常勤講師  
研究者番号(8桁)： 40534558

研究分担者氏名： 四宮瑞枝  
ローマ字氏名： SHINOMIYA, Mizue  
所属研究機関名： 早稲田大学  
部局名： 文学学術院  
職名： 准教授 (任期付き)  
研究者番号(8桁)： 20732671

(2)研究協力者

研究協力者氏名： Concha MORENO

研究協力者氏名： 中島さやか  
ローマ字氏名： Sayaka NAKAJIMA

研究協力者氏名： 小橋さおり  
ローマ字氏名： Saori KOBASHI

研究協力者氏名： 菅原昭江  
ローマ字氏名： Akie SUGAHARA

研究協力者氏名： Carlos, GARCÍA RUIZ-CASTILLO

研究協力者氏名： 山浦 Angela

研究協力者氏名： Vicente OTAMENDI

研究協力者氏名： Paloma TRENADO

研究協力者氏名： Clara Miki KONDO

その他 GIDE 会員

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。